



嬉しい来訪者

今日の1時間目の休み時間に来客対応していると、廊下に人だかりができていました。校長室をノックしてきた3年生の子供たちに話を聞くと、「段ボールで作ったミカンの木を持って来ました!」と言うのです。よくよく見ると、みかんの木には、色紙で作ったみかんが付けてあります。子供たち曰く「5つまで取っていいよ。」ということで私も5つのみかんを手にすることができました。実は、このみかんの木は、見学旅行に行けなかったお友達のために作り、お友達にみかん狩りの気分を味わってもらうために作ったそうです。本校では、道徳教育による自己有用感の育成を目指しています。まさに、その成果が目の子供たちから感じることができ、嬉しく思いました。



尚、このみかんの木ですが、お友達がみかん狩りをした後は、クリスマスツリーへと変身するそうです。子供たちによる生活創りも大切にしている帯西ですので、こういう発想をこれからも大切にしたいと思いました。

幕末の戦争遺産「台場」

テレビを見ていると、「お台場の〇〇さ〜ん。」とレポーターに呼びかけている光景がありました。皆さんはこの「お台場」と聞くと何を連想されますか？東京で有名な観光地を連想する人が多いと思います。東京の「お台場」の正式な住所は「台場」と書きます。この「台場」にはどんな意味があると思いますか？これは「台場」=「砲台が置かれた場所」という意味です。つまり元々は軍事施設の跡地なのです。江戸時代末期の黒船来航をきっかけに、日本にやって来る外国船に対抗するために作られました。この「台場」というものは、幕府が築いたものだけでも、弁天台場（北海道）、境台場（大阪）などあります。その他、各藩が築いた台場もあります。



熊本にも台場があります。道の駅阿蘇近くに「二重峠の石畳」という豊後街道の一部がありますが、今でも石畳が残されており、国史跡指定もされています。この、二重峠は、加藤清正公が作った街道で、肥後と豊後を結ぶ豊後街道の一部で、江戸時代には細川氏の参勤交代に使われていました。また、西南戦争の激戦地としても有名で、ここに西南戦争の際、官軍(政府軍)と薩軍が使っていた台場跡が残っています。周辺を散策すると、当時使われていた弾丸も落ちているそうです。他にも調べると「台場」の地名は熊本にもいくつか残っているようですね。

それでは、なぜ台場には「お」が付いているのでしょうか？これは幕府が作ったものだから「お」を付けて読んだとされています。城を「お城」、役人を「お役人」などと呼ぶのと同じです。「台場」という場所に行くことがあったら、過去の歴史に思いを馳せてみるのも一つの観光の楽しみ方だと思います。